



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE 第26号

発行日：令和7年6月1日
発行：特定非営利活動法人
M・I・T・O 21
〒310-0851 水戸市八幡町 2-1
発行責任者：兼子 千恵子

令和6年度を振り返って

理事長 兼子 千恵子



ありがとう!

みと文化交流プラザ

創立当初から長きにわたり、理事長としてこの会を支えてくれた黒澤理事長から引き継いで1年間、役員をはじめ会員の皆様のご協力により大過なく事業を進めることができました。厚く御礼申し上げます。

また、この3月末をもって、男女平等参画課が本庁舎へ移転、永年活動の拠点としていたセンターが解体されることとなりました。私たちにとっては、あらゆる意味で大きな痛手となります。これからの活動に支障がないよう考えていかなければならないと、改めて心引き締めたところです。

さて、MITO21の1年間の活動をふり返ってみたとき、全員が一同に顔を合わせることが大変難しい状態になっている現実がまざまざと物語っております。これは、コロナ禍のあとの社会情勢の変化と、会員の高齢化も大きな要因としてはありますが、会員の興味をひく企画が設定しにくいということが頭を悩ませているところです。

その中、新市民会館で開催したヒューマンライフシンポジウムは、「災害時における女性の参画」に特化した実りある成果が得られたと思われまます。9月1日という、それぞれ地域で防災の行事に重なってしまいましたが、高校生のボランティアを含め若い世代が当日の運営に参加してくれたことは明るい未来が見えてきました。これから若い世代に、私たちの活動の目的を引き継ぐことも大きな課題であることを念頭に置き、この世代を超えた企画を広げていく必要性を感じました。

その他、全体会として、6月に出席講座「防災・危機管理」を、2月にはSDGs講座「オーガニックコットンを通して人類が抱える社会問題・環境問題」と、日常私たちが考えていかなければならない課題について、学習する機会を持ちました。また、3月の「ありがとう！みと文化交流プラザ、うたごえカフェ」には多くの市民の参加もあり、プラザへの感謝と惜別の思いを共有しました。

今後、急速に進んでいる高齢化の問題は避けては通れません。男女平等参画センターが市内中心部から市役所本庁舎に移転したことで、交通網の不便さが表面化してきました。これは市民全体でとらえていかなければならない問題ではありますが、先進地視察なども含め、多くの市民にも呼びかけていく必要があると痛感しています。今年10月には、長い間中断されていた「日本女性会議 2025 櫃原」が開催されます。25年前のあのうねりを思い返し、外の空気を取り入れに出かけませんか？どうぞ、会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

目 次

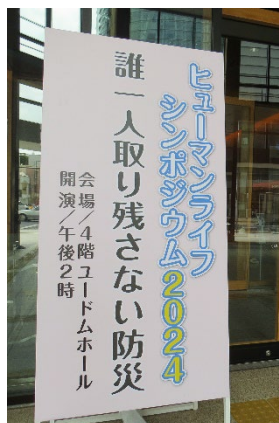
- | | |
|---|---|
| 1. ごあいさつ・・・・・・・・・・1頁 | 3. SDGs 講座オーガニックコットンとファッションを考える・・・・・・・・・・4頁 |
| 2. ヒューマンライフシンポジウム
2024 開催される・・・・・・・・・・2頁 | 4. 男女平等参画センター移転・・・・・・・・5頁 |
| 『自助』から始まる防災・・・・・・・・3頁 | 5. うたごえカフェ、他・編集後記・・6頁 |

～未来へつなぐメッセージ～

ヒューマンライフシンポジウム 2024

誰一人取り残さない防災

—男女平等参画の視点から—



市民会館正面の看板

水戸市民会館が水戸市中心地に開館し、大きな規模のイベントは待ちに待った会場で、シンポジウムの企画が無尽大にできるだろう!!!
しかし 9月のなんと防災の日しか候補日がない！

今回は新年早々に起きた能登の地震災害の大きな警鐘があり、防災に男女平等参画の視点があるか?!そこで講演は東日本大震災や度重なる台風による水害などの被災者支援で活動をおられる青森県の(一社)男女共同参画みらいねっと代表理事である小山内世喜子氏をお願いしました。



小山内世喜子氏

小山内氏は、2002年青森で日本女性会議開催に関わっていて、実行委員同士のつながりからも、特段の配慮で水戸においていただくことができました。数日前まで能登の被災地の支援に赴いており、後泊された後も即、防災関連の講演に出向いたそうで帰宅は数日後という忙しい中の来水でした。

1. 災害関連死ゼロを目指す…

第一部 基調講演

助かった命を、避難生活などで疲労や環境の悪化で二次被害を起こさないこと

2. 誰一人取り残さない… 男女の性差からくる災害の影響とは!!

・トイレの問題 我慢する、水を飲まない、清潔が保てない、不衛生から膀胱炎や 婦人科系疾患の発症誘発/母子の配慮、授乳、妊産婦、生理時の苦痛

・プライバシーの確保 社会的・文化的に作られた性差の弊害/固定的性別役割意識の重圧など

3. 避難所のリーダーは男性が多く、女性のニーズがくみ取れない。昼の避難所は高齢者・子ども・女性が多い。男性は外への作業に、避難所の運営に女性が大きく関わっているが、問題が出てこないと改善に結びつかない。「気づく力」が大切である。



第二部 トーク&トーク

司会の防災士でアナウンサー
菊池真衣氏のトークで
防災用の備えのお話と

防災クイズ Q&A

東日本大震災

あの時の私たちは?



会場のロビーで高校生ボランティアが
啓発物「みとちゃんバック」を配布しました。
非常持ち出し袋に使ってください!!



防災・危機管理課の
レクチャー

『自助』から始まる防災 大内 晴江

東日本大震災の時は、次週のイベント打ち合わせで椿山荘の錦水にいました。大きな地震と思いましたが、揺れるのを見ませんでしたので恐怖感はありませんでした。ホテルロビーに移動し、暗くなってからテレビが運ばれて、初めて大変なことが起きていることを知りました。普段から防災用品を備えていましたが、ヒューマンライフシンポジウムのテーマが「誰一人取り残さない防災～男女平等参画の視点から～」でしたので、本を読んだり、防災をテーマにしたテレビ番組を録画したりと、更に防災を考えるようになりました。

災害後は国や自治体は「人命救助」を優先するため、電気・ガス・物流などのライフラインなどの支援体制が整うまでに時間がかかります。緊急時には普段の準備がものを言います。「自助」「近助」「共助」「公助」と言う言葉がありますが、自分の安全を確保することで、家族や周囲への支援に繋がります。

スマホの緊急地震速報は通知をオンにしておくことも大事で、iPhone は、設定→通知→緊急速報 ON。Android は、設定→通知→詳細設定→緊急速報メール ON にしておくことによって、揺れが始まるまでの数秒間でも身を守る行動が出来ます。

水戸市が発行している「みんなでつくる防災のまち水戸 保存版一次なる震災に備えて一」には、「地震が発生したら」「どこに非難したらいいの？避難所と避難場所の違いは？」など防災に関する必要なことが分かりやすく説明されていて、安否確認の「災害用ダイヤル 171」の使い方や、水戸市の防災対策についても掲載されていますので、手元に置いて参考にしてほしい冊子です。

食料品はローリングストックと言う少し多めに栄養バランスも考えて食材・加工品を買っておき、使ったらその分を買い足していくやり方で、ストック食品の私のお薦めは、アルミパックに入ったお粥です。梅・鮭・蟹味などがあり、そのまま食べることができます。独り暮らしの方が寝込まれた時、食料をお届けすることができました。機会がありましたら、防災サバイバルレシピもご紹介したいと思います。

茨城大学では、エレベーター内に閉じ込められた時の「エレベーター防災セット」が設置されていました。三角形の形の椅子で蓋を開けると水やクッキーなどが入っていて、腰を下ろすこともでき、アルミブランケットで目隠しをしてトイレにもなるものです。

水とトイレは備えの基本です。長い時間を過ごすのが自宅で災害にあう可能性が高いのも自宅です。自宅が安全な場所になるように危険な場所のチェックや防災用品・非常用持ち出し袋準備、家族で乗り切るためのルールづくりなど「普段の心がけ」で防災力をアップしましょう。



SDGs 講座—国産綿花から私たちができ行動に向けて—

『SDGs とファッションの世界』—オーガニックコットンを通して、

人類が抱える社会問題・環境問題を解決する取り組みとは—

令和7年2月22日(土)

みと文化交流プラザ
1F102会議室

講師

株式会社アバンティ代表取締役社長

奥森秀子氏



1, オーガニックコットンについて

- 一般のコットン畑には、多くの化学薬品(除草剤・殺虫剤・殺菌剤・落葉剤)が使われています。綿花は世界中の殺虫剤の16%, 農薬の10%が使われているのです。
- Tシャツ1枚の綿花(200g)の栽培に化学薬品(農薬と化学肥料)を150g使用
- ・世界一のコットン畑を持ち、中国に次ぐ第2位の生産量インドでは、35万人の子ども達が働いており(児童労働)、6~7割は女の子です。
- ・綿花畑で少数民族ウィグル族が強制労働されています。(2021年4月)
- ・世界最大のTシャツ製造国のバングラディッシュでは、Tシャツ工場で450万人が働いています

2. ファッション産業は、石油に次ぐ、世界第2位の環境汚染産業です。

- 全世界では、1年間に20億枚のTシャツが販売されています。
- Tシャツ1枚作るのに、2700ℓ(バスタブ30杯分)の水が必要です。・工場から出荷したコットンは、中国の工場に運ばれ、熱や化学薬品で柔らかく、漂白されます。それから、70%の生地が染色されますが、カドミウム・鉛・クロム・水銀などの有害物質が使用。・排ガス・排水など環境を汚染しています。・大量の衣類が廃棄されています。



- 有名ブランドは、ブランド保護のために、ファストファッションの会社も売れ残り衣料を廃棄しています。日本でも年間100万トン(約33億着)が廃棄、うち77%は焼却・埋め立てされている。(18%がリユース・5%がリサイクル回収され洋服としては再生は1%のみ)
- ・化学繊維は、マイクロプラスチックとなり洗濯排水とともに川に、そして、海に放出されます。→ポリエステルマスクは、分解するのに450年かかります。

このような社会問題・環境問題を解決するため私たちが出来ることを考えてみましょう!!

2011年東日本大震災を機に、福島を中心とした本格的な国産綿花の栽培に取り組む「国産綿復活プロジェクト」がスタートになり、2021年に「アバンティコットン倶楽部」を設立しています。2030年までに自社ブランドプリスティン製品での国産綿使用混用率2%を目指しており、国内協力綿花畑全国24か所(2023年時点で10品種栽培にチャレンジ) ちなみに小美玉市のNPO法人わわわネットは令和6年より休耕畑を借りて綿花の栽培をスタートさせています。この資料はわわわネットワークの米川久子さんのご厚意で掲載させていただきました。まずは綿の種を蒔くことから始めましょう。

みと文化交流プラザ・水戸市男女平等参画センター

私たちが活動の拠点としてともに歩んできたこの建物が、3月末日をもって閉鎖され、その後解体されることとなりました。

ご承知のように、2001年に全国から3000人を超える参加者を迎え開催された、日本女性会議 2001 みと、そのおりに水戸市は全国に先駆けて男女平等参画基本条例を制定し、男女平等参画センター「びよんど」は、活動の拠点となっておりました。

私たちは、登録団体とともに市議会陳情など、男女平等参画基本条例を基本とした男女平等参画センターの役割の大きさ、今後の活動に及ぼす影響など市当局に申し入れてきました。

市の中心部に位置する立地条件も踏まえ、高齢化の時代には、ありがたい存在でした。会議の後にはおしゃべりや買い物をしたりと、出かけてくることの楽しみもありました。

NPO 法人 M・I・T・O21 の発足記念には、池上彰さんをゲストに「そうだったのか・講演会」を6階大会議室が満席のもと開催しました。そしてその後水戸市より委託を受け毎年ヒューマンライフシンポジウムを6階大会議室で、加藤タキさん、阿木燿子さん、ロバートキャンベルさんなどをゲストに迎え、市民と一体となって活動ができました。



また、水戸の女性史をつくる会では、15年という歳月をかけ、昨年9月に「水戸の戦後女性史」を編纂するという大事業を成し遂げました。毎週の編集会議の場所と、多くの資料を提供していただいた、男女平等参画課の協力がなかったらむずかしかったと思います。

このように、市の中心地に位置し、文化の発信地としても50年間活動を支え、共有してきた拠点がなくなり分散されてしまうことは大変残念です。

今回、市庁舎2階に「水戸男女平等参画センター」が開設されたことに関しては、水戸女性会議、市議会議員、登録団体など、多くの皆さんがひとつになったことで成し遂げられたことであると確信します。東日本大震災やコロナ禍を乗り越え、今までも大きな試練を乗り越えてきた私たちです。さらなる発展を期待しましょう！ 兼子 千恵子:記



男女平等参画センター
“びよんど”



6階を会場にしたシンポジウム



うたごえカフェで感謝の集い

令和7年3月15日



うたごえカフェ 令和1年3月15日

ありがとう!! みと文化交流プラザ

男女平等の思いを明日につなぎ、みんなの
歌声を響かせよう!! Think you so much !!!



6階大会議室 集まったうたごえの仲間たち!!!



夜梅祭

あしたの学校のメンバ
ーが弘道館・大手門を
案内しました R7.2.22

50年近く、水戸の中心に位置し、市民の文化醸成を図り、老若男女誰にも優しく、水戸ならではの文化の粋を広げて、~~の向こうへと未来志向で活動させていただいた施設に感謝を込めて、春の小川や夏の思い出、学生時代、若者たち、雪の降る街へ、母さんの歌、今日の日はさようならと歌いたい歌が次々と続きました。思い切り大きな声で歌えるのも、びよんどならではありません。こんなに楽しい活動は、今後難しいでしょう。ありがとうの言葉でみと文化交流プラザのお別れの会を閉じました。H・U

水戸芸術館と佐川文庫そして水戸市民会館へ 小林 弘子

市民活動の拠点だったみと文化交流プラザの閉館を機に、今まで積み重ねて得た実り・次の世代へバトンタッチして残したいことは何だろうか。本会の事業の一つに、水戸市芸術振興財団の大津良夫様の講話が2回に分け佐川文庫でありました。

1990年市制100周年を記念して開館してから30年余、文化施設運営の骨子は楽しみながら、新しい文化活動を作り上げること。その拠点となり都市の活性化に寄与することでした。『自発的に芸術的な市民活動に参加することを通して、誰もが己の内面の豊かさを構築し精神面の充実が計られること』を目指して来たこと。それはまさに文化都市づくりは市民の内面熟成に主軸あることでしょう。心の豊かさの探求の場は他にも居住地近辺にも存在しており、歩いて行ける範囲に利便性の良い市民センターがいつでも自主活動に使用できるよう門戸を開き、市民活動を支援しています。図書館も自由に利用でき、市民の内面成熟は活動意欲で生まれると語られました。

私のお気に入り佐川文庫があります。敷地内には四季折々の花が咲き、手入れの行き届いた庭は訪れる人を癒してくれます。館内は図書館と音響の良いホールがあり、国内外で羽ばたく、若手・中堅の演奏は、持てる才能と努力・向上心から生まれるのでしょう。至福のひとつになります。毎年芸術館広場でベートーベンの第9番合唱が市民参加で行われています。300人以上の市民が参加しています。共有できたあのメロディは、時間が過ぎても、心の中で生きています。

今、市民会館を核に Mitorio で市民参加の活動が生まれています。日立市民オペラ合唱団の協力をいただいて、3月には市民ワークショップ2回目の公演を行いました。ここでの文化活動のジャンルの多さに驚いています。多様化は新しい生活文化を築いて行くことでしょう。更なる発展を期待しているところです。



編集後記：日本女性会議2001みとから早25年過ぎ、活動の拠点の「びよんど」各団体と交流できた場は水戸市役所本庁に移転となった。今後は時代に即応した官民協働の拠点となることを期待したい。昨今、予測しない自然災害に見舞われているが、「備えあれば憂いなし」「自助」から始まり、共助・公助』についての意識が多くの人に理解されることを願っています。H・K